

紅葉まつふ

高江会女部吉野山支部

歌碑・句碑



万景歌碑は故人しらす
吉野にて作る神さぶら
み吉野の心宿みを見ればかなし

如急禰子の境内
後醍醐天皇陵に詣りて
柳木正行の本堂の扉に
「かゝらじとて思へば
砕ろなきかすいなるを
ととむる」と評せし歌を
残した。中世以来多くの文人
を誘ひ訪れて多く作
を残してあり境内には句碑や歌碑が建たせられて

竹林院の境内
西行法師の歌碑
吉野山、そのしるりの
道のつてまた見ぬがたの
心をたづねむ

吉野山をくらくらくと目にはまうて来て
おぼしむ心人忘らぬやも 道空
よしの山奥は知らぬ人も
見ゆるのきは梅なりけり 八田知紀

「南朝の帝」歌碑
見しよに花も咲ぬと都にていつか吉野の合を聞かまし 後鳥羽天皇
わが宿と頼ますのち吉野山 花になれぬる舎いよとせ 長慶天皇
吉野山に時を待て咲きにけり都のつとに今やかざさん 後村上天皇
袖のす天津女も思ひ出すや吉野の宮の首語りよ 後醍醐天皇

吉野朝宮跡
「吉野天考」句碑
歌者よも 軍兵にかなしし山の山 東在坊
「良寛和尚の吉野紀行の碑など」

「松尾芭蕉」句碑
吉野にて さくら見せふそ 檜木空
花ざかり山は日比の朝ばら布 芭蕉翁

「万景歌碑」天武天皇
吉野の宮に幸しし時の御製歌
よき人のしるしと見てよしと言し
吉野よく見よよき人よく見

淑人乃 文武天皇
良跡を良而
好常言師
吉野吉見興
良人四末三
房書

後醍醐天皇の歌碑
後醍醐天皇御製
石は
よしの
まぐらのも
よしの
よしの
よしの

吉野山観老車道
大開花見塔

御廟を建て
芭蕉
思は
何を志すか